

# スローテンポ通信

第 10 号 改訂版

2017 年 11 月 10 日

発行：一般社団法人スローテンポ協会  
〒329-0403 栃木県下野市医大前 3-7-4

☎ 0285-35-2888

Eメール [usagimokamemo@gmail.com](mailto:usagimokamemo@gmail.com)

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>



## スローテンポ書店

営業：10 時～18 時  
日曜・月曜・祝日休み

小さな出版社の本を専門に扱う小さな本屋です。新刊が入荷し、展示配列を変更しました。ライフスタイルをあらためて見なおすときに役に立つ本がたくさんあります。

### 今おすすめの本：

『切斷ヴィーナス』

『禁じられた江戸風俗』

『パンツを脱いだサル』

『古代東国仏教の中心寺下野薬師寺』

『シリーズ藩物語宇都宮藩』

『知っていますか？高齢者の人権』

『障害は心にはないよ社会にあるんだ』

『精神病院はいらない』

『アシュリー事件』

など、他にもあります。

お気軽にお立ち寄りください。



## 地域を元気にするための 談話会

誰でも参加できる意見交換の場です。

水曜日午後 3 時～5 時、参加費無料。

日ごろの意見を誰にも話さないのは心の健康によくありません。若者も高齢者も、話したい人も、ただ聞きたいだけの人もどなたでも参加できます。



## 文章を書いてみませんか

自分の考えを整理して文章にしましょう。

文章を書くときに誰に読んでもらうのかを意識すると、自分と相手を冷静に見つめられるようになります。

それをくり返せば、自分自身と自分を取り巻く周囲の世界を客観的に見れるようになり、認知症などの発症を予防します。

1000 文字程度の文章を持ち寄って、言いたいことが正確に伝わっているかを受講者どうしで述べ合います。

文章教室は毎週木曜日午後 3 時～5 時、参加随時、参加費は 1 回 500 円。

お問い合わせは当協会まで。

## 歩行者にやさしい街づくり

### 歩行者優先を徹底させるだけで街は変わります

歩きスマホは、本人にとって危険であるだけでなく、回りにとってはとても迷惑です。世界中で禁止される動きになっています。

しかし、よく考えてみましょう。視覚障害者は白い杖と記憶を頼りに歩いています。視覚障害者が安全に安心して歩ける街とは、安全に安心して歩きスマホができる街かもしれません。

車優先の街づくりの結果、歩行者は安心して街を歩けなくなりました。ぼやっと歩いているといつ車が突っ込んでくるかわかりません。

歩道のない道路では、車の通行を邪魔しないように歩かなければなりません。歩道があっても駐車場に出入りする車がひっきりなしに歩道をさざぎります。

送迎の車やごみ収集車は、歩道に乗り上げて駐車します。ひどい車はすっかり歩道を占拠します。車の通行の妨げになってはいけないという配慮からなのでしょうが、歩行者の通行障害になることは念頭にありません。

歩道が占拠されていれば、歩行者は車が来ないことを確認して車道に迂回しなければなりません。

下野市の歩道には、車道との段差をなくした設計になっているところが多く見られます。車椅子に対する配慮からではなく、車が歩道に乗り上げやすくするためです。

商店の中には、駐車場スペースが不十分で、歩道にまではみ出して駐車している光景は当たり前になっています。歩行者は前をしっかり見て歩かなければなりません。視覚障害者が通行すればぶつかってしまいます。

車社会といえども車に関する課題は、車の恩恵にあずかる人どうしで融通しあえばよいのであって、歩行者にしわ寄せを強いるのは間違いです。

ではどうすればよいのでしょうか。

車中心の社会常識は、車優先の発想から生まれました。それを見直すことからはじまります。

ところが、人々に車優先の感覚がこびりついていて、なんの疑問すら抱きません。

日本ではほぼ絶滅しましたが、世界のにぎやかな市場や商店街では当たり前のように歩行者優先です。歩行者が多くて車も進入してきません。荷物を届けるためにやむなく入ってくる車も、おのずと歩行者優先を守ります。だから歩行者も安心して買い物ができ、人が集まります。

歩行者を大切にするという意思さえあれば、歩行者優先の街づくりは可能です。歩行者が優先されれば、人は散歩やショッピングを楽しみます。時間があれば遠回りしてでも歩こうと思います。

歩行者が増えれば商店が増えシャッター通りも、ウォールストリート(裏壁通り)もなくなっていきます。歩行者優先を徹底させるだけで街は変わります。

車以外の障害物、電柱や看板などは歩行者の妨げにならないよう、速やかに対処を工夫すればよいのです。災害復興などで車の通行の妨げになればすぐに対策してきたようにすればできます。

歩行者優先の街とは、視覚障害者が安心して歩ける街であり、それは歩きスマホができる街ということです。

ただし、他の歩行者、高齢者、乳幼児や妊婦、身体に障害のある人たちの安全を確保しなければなりません。

歩きスマホは視覚障害者とは違うことをはっきりさせておきましょう。

視覚障害者は困難を抱えながらも目的地に向かうために道路を通行します。困難であってもそれしか手段がないのです。

それに対し歩きスマホは、普通に歩けるにも関わらず、自分の都合で、自ら周囲への注意をおろそかにしてスマホを操作しながら歩きます。他の通行者への配慮や思いやりに欠けているのです。

「安心して歩きスマホができる」というのは本人がそう思うだけで、いかにゆっくり歩いても周りは安心できないということを知らなければなりません。

本人も回りも安心して歩きスマホができるようにはできないのでしょうか。

試験的に歩きスマホ専用レーンを設けてみるのはどうでしょう。歩きスマホの安全性が確認されれば、まったく同じスタイルの視覚障害者専用レーンを設けることにするのです。

いわば、歩きスマホで視覚障害者の危険性を試験するのです。これこそ誰からも賛同を得られる方法です。

N、ブログ『うさぎもかめも』より要約